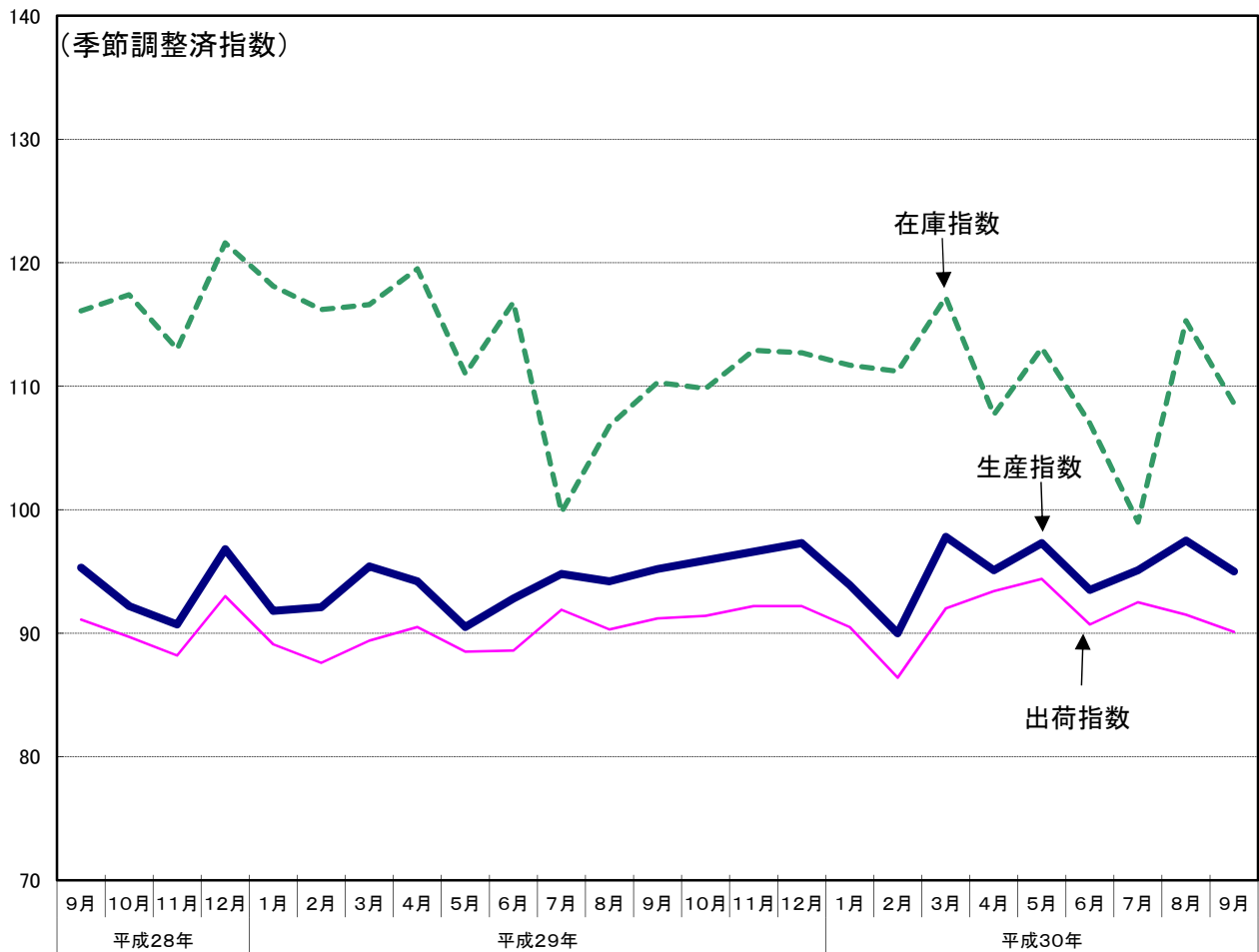


東京都工業指数月報

平成30年9月分・第3四半期分

東京都工業指数の推移 (平成22年平均=100.0)



東京都工業指数の概要

1 目的

東京都内の工業生産活動の動向を、総合的かつ迅速に把握することを目的とする。

2 指数の基準年次

平成 22 年である。

3 作成の範囲及び分類

- (1) 日本標準産業分類大分類 E「製造業」並びに F「電気・ガス・熱供給・水道業」の中分類 33「電気業」及び 34「ガス業」に属する産業の生産指数、出荷指数及び在庫指数について、原指数と季節調整済指数を作成している。

なお、経済産業省の鉱工業指数で採用されている大分類 C「鉱業、採石業、砂利採取業」及び E「製造業」の中分類 17「石油製品・石炭製品製造業」は、東京都ではウェイトが小さいため採用していない。

- (2) 分類は、日本標準産業分類に基づく業種分類と、採用品目をその用途により財別に格付けした特殊分類の二つである。

4 採用品目

生産指数及び出荷指数は、176 品目、在庫指数は 85 品目である。

また、これとは別に、生産指数及び出荷指数には、電気・ガス事業 2 品目があり、これらを加えて産業総合として示している。

5 ウェイト

- (1) 生産指数のウェイトは、基準年次の付加価値額でみた各部門、各品目の製造工業に対する比率（1 万分比）である。
- (2) 出荷指数のウェイトは、基準年次の生産者出荷額でみた各部門、各品目の製造工業に対する比率（1 万分比）である。
- (3) 在庫指数のウェイトは、基準年次の生産者製品在庫額でみた各部門、各品目の製造工業に対する比率（1 万分比）である。

6 算式

指数の算式は、個別系列を基準時のウェイトで総合する基準時固定加重算術平均（ラスパイレス算式）である。

7 季節調整

景気の動向にかかわらず、1 年を通してほぼ規則的に繰り返す季節的な変動要素（気候条件の変化や社会的な慣習、制度等）を取り除くために季節調整を行っている。

東京都では、センサス局法の X-12-ARIMA を使用している。

8 資料の出所

ウェイトの算出に利用した付加価値額、生産者出荷額及び生産者製品在庫額は、「平成 22 年工業統計調査」を基礎データとして、「生産動態統計調査」等から得た。

各品目の系列資料は、「生産動態統計調査」、既存の資料及び業界等の協力によって得ている。

全国の鉱工業指数は、経済産業省「鉱工業（生産・出荷・在庫）指数」による。

9 その他

平成 12 年基準改定において鉱業を採用しないこととしたため、平成 15 年 7 月以降、名称を「東京都鉱工業指数」から「東京都工業指数」に変更した。

東京都工業指数の動向 (平成30年9月分)

概況

－ 生産指数は前月比で2.6%の低下 － (平成22年平均=100.0)

項目	月	季節調整済指数		原指数	
		指数	前月比(%)	指数	前年同月比(%)
生産指数	9月	95.0	△ 2.6	102.2	△ 2.5
	8月	97.5	2.5	89.3	4.4
出荷指数	9月	90.1	△ 1.5	97.9	△ 4.0
	8月	91.5	△ 1.1	83.9	2.9
在庫指数	9月	108.6	△ 5.8	108.1	△ 1.5
	8月	115.3	16.5	114.5	8.0

注) 指数は、最新月が速報値、それより前の月は確報値である。

1 生産指数

9月の生産指数は、前月比で2.6%低下し、指数水準は95.0(季節調整済)となった。
22業種中、情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業等14業種が低下し、食料品工業、生産用機械工業等8業種が上昇した。

2 出荷指数

9月の出荷指数は、前月比で1.5%低下し、指数水準は90.1(季節調整済)となった。
22業種中、情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業等11業種が低下し、食料品工業、生産用機械工業等10業種が上昇した。窯業・土石製品工業は変わらなかった。

3 在庫指数

9月の在庫指数は、前月比で5.8%低下し、指数水準は108.6(季節調整済)となった。
21業種中、輸送機械工業、生産用機械工業等12業種が低下し、紙・紙加工品工業、その他製品工業等8業種が上昇した。ゴム製品工業は変わらなかった。

業種分類別の動向(季節調整済指数)

	前月比上昇				前月比低下			
	業種数	主な業種名	前月比(%)	寄与度	業種数	主な業種名	前月比(%)	寄与度
生産指数	8	食料品工業	13.0	0.9	14	情報通信機械工業	△ 26.8	△ 1.9
		生産用機械工業	9.4	0.7		電子部品・デバイス工業	△ 19.8	△ 1.4
出荷指数	10	食料品工業	11.5	0.8	11	情報通信機械工業	△ 21.9	△ 1.6
		生産用機械工業	10.1	0.7		電子部品・デバイス工業	△ 15.7	△ 1.4
在庫指数	8	紙・紙加工品工業	32.0	0.3	12	輸送機械工業	△ 7.4	△ 2.9
		その他製品工業	8.4	0.1		生産用機械工業	△ 14.5	△ 2.7

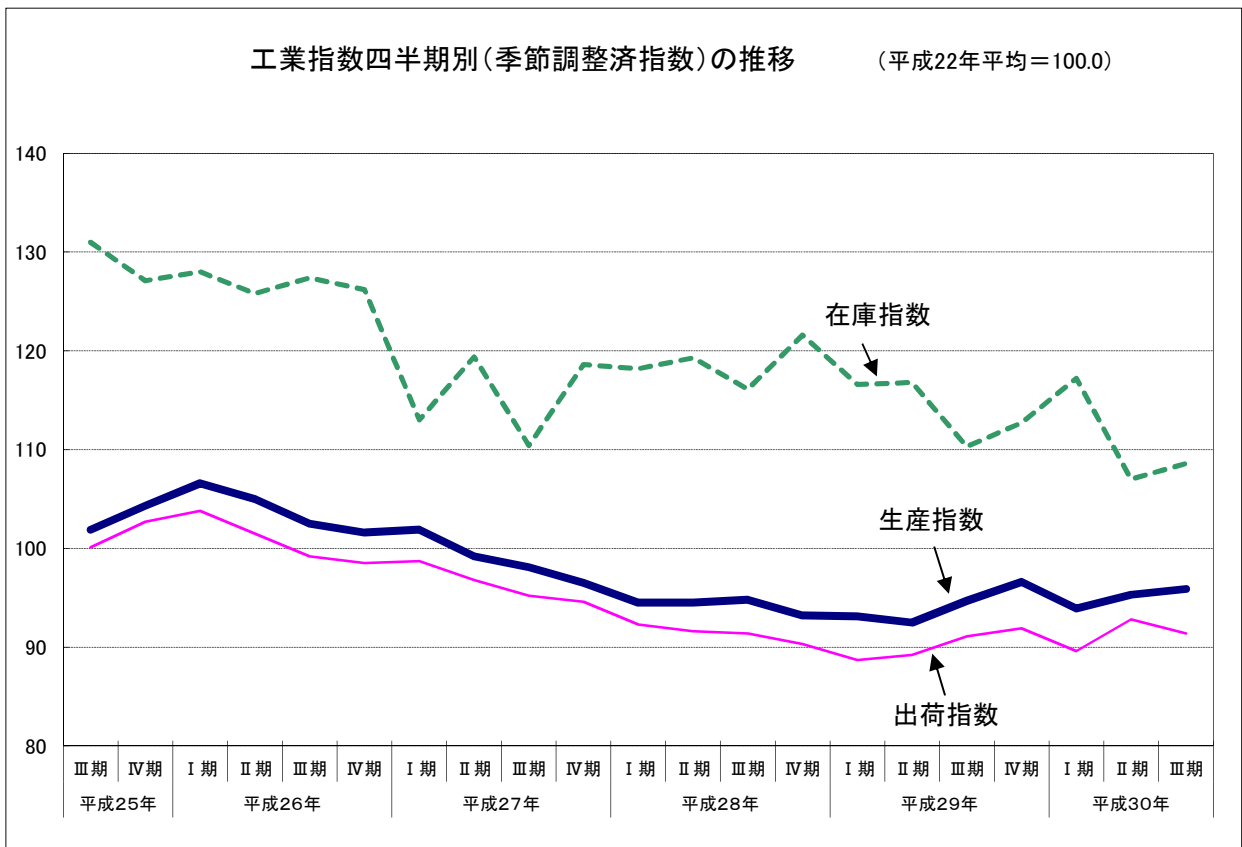
注) ・主な業種には、寄与度の上位2位を掲載した。
※寄与度は、各業種の上昇・低下がどれだけ全体を上昇・低下させたかを示す。

東京都工業指数の動向 (平成30年第3四半期(7~9月)分)

1 工業生産活動の動向

平成30年第3四半期の生産指数は前期比で0.6%の上昇、
出荷指数は前期比で1.5%の低下、在庫指数は前期比で1.5%の上昇

平成30年第3四半期の生産指数は、前期比で0.6%上昇し、2期連続の上昇となった。出荷指数は、前期比で1.5%低下し、2期ぶりの低下となった。また、在庫指数は、前期比で1.5%上昇し、2期ぶりの上昇となった。



工業指数四半期別(季節調整済指数)の推移 (平成22年平均=100.0)

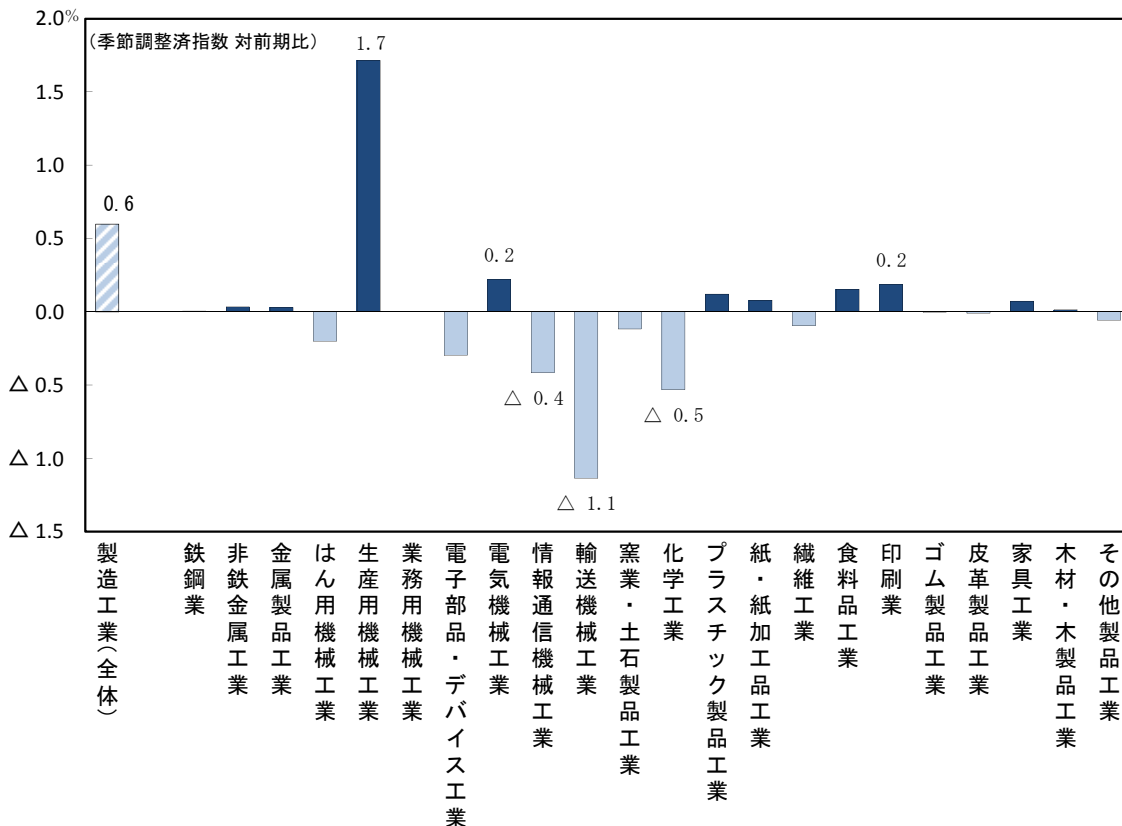
年・四半期	生産指数	前期比(%)	出荷指数	前期比(%)	在庫指数	前期比(%)
平成29年 I期	93.1	△ 0.1	88.7	△ 1.8	116.6	△ 4.1
II期	92.5	△ 0.6	89.2	0.6	116.8	0.2
III期	94.7	2.4	91.1	2.1	110.3	△ 5.6
IV期	96.6	2.0	91.9	0.9	112.7	2.2
30年 I期	93.9	△ 2.8	89.6	△ 2.5	117.2	4.0
II期	95.3	1.5	92.8	3.6	107.0	△ 8.7
III期	95.9	0.6	91.4	△ 1.5	108.6	1.5

注) 指数は、最新の四半期が速報値、それより前の四半期は確報値である。

2 生産指数対前期比の業種分類別寄与度からみた動向(平成30年第3四半期)

生産用機械工業等が上昇に寄与

生産指数の前期比に対する業種分類別寄与度でみると、上昇に寄与した業種は、生産用機械工業等 11 業種であった。低下に寄与した業種は、輸送機械工業、化学工業等 10 業種であった。業務用機械工業は変わらなかった。



注1) 寄与度とは、各業種の上昇・低下がどれだけ全体を上昇・低下させたかを示す。

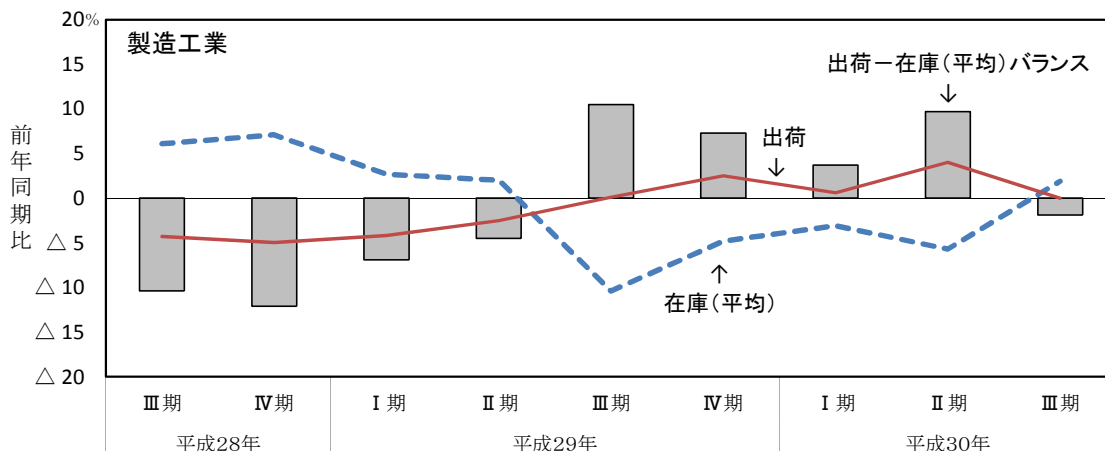
2) 生産指数対前期比とは、直前の四半期の生産指数と比べて、最新四半期の生産指数がどのくらい上昇・低下したかを示す。

3) 季節調整は各系列ごとに行っているため、業種分類別寄与度の合計と製造工業(全体)の前期比は必ずしも一致しない。

3 出荷－在庫バランスからみた動向(原指数・四半期別)

出荷－在庫バランスは、マイナスに転じる

四半期別の出荷と在庫の前年同期比の差である出荷－在庫バランスをみると、前期まで4期連続して続いたプラスから、今期は平成29年第2四半期以来のマイナスに転じた。



注) 出荷－在庫バランスについて

出荷－在庫バランス(＝出荷の前年同期比－在庫の前年同期比)は景気の先行き予測に利用される。プラス幅の拡大は、在庫水準の低下・生産活動活発化の必要性(景気回復)を、マイナス幅の拡大は、在庫水準の上昇・生産調整の必要性(景気悪化)を示している。